



高校生議会に参加してきました！

今年度、生徒会長の上田君（M3）、副会長の中原君（M2）を中心とし、鳥取県庁で開催された高校生議会に参加しました。高校生議会は県政や議会への関心を高めてもらおうと2年に1度開催しており、今年は新型コロナウイルスの影響で3年ぶりの開催となりました。本校は「持続可能な工業高校とは-鳥取県のものづくり高校の未来について-」というテーマのもと、答弁をさせていただきました。

① 6月に全校生徒に高校生議会について説明を行いました。



②全校生徒に「Google Forms」を活用したアンケートを実施しました。

「高校生議会」について



③全校生徒に回答してもらったアンケート結果を集計後、質問原稿を作成し、担当議員の語堂議員と打ち合わせを行いました。



④10月31日、鳥取県庁全員協議室（議会棟別館3階）にて、高校生議会が開催されました。



■質問内容

- ① 工業高校はなぜ人気が無くなりつつあるのか、工業高校が魅力溢れる学校になるように、具体的にどのような取組が必要か。
- ② 就職に強い工業高校で、進路が未定の者を除いて約3割が「進学」を希望し、その内の7割を超える生徒が県外への進学を希望していることから、工業高校生に対する地元での進学の受け皿づくりに力を入れていただきたいと思うが、どのように考えているか。また、専門的知識や技術を身につけた工業高校の卒業生が高校卒業後、鳥取県に残って地元企業でしっかりと技術を継承していくことが、地元を担う私たち工業高校生の役割である。工業高校生が卒業後も鳥取県で学べる環境づくり、「働きながら学べる県（けん）」。こういった環境も必要が大切だと考えるが、働きながら学べる社会人への支援を進めることについて、どのようにお考えか。

■まとめ

本校の全校生徒の意見をまとめた質問は、副知事、教育長からご回答を頂きました。閉会式では内田 県議会議長より、発表された全生徒を代表して上田君（M3）へ参加賞を贈呈していただきました。

今回参加した2名は「鳥取県には様々な課題があることを知った。常に変わりゆく日々の中でこれからは自分たちのような若い世代がいち早く世の中に対応し、鳥取県の未来について知ること、そして鳥取県の未来について考えること、声をあげることが大切だと感じた。」と発言していました。

工業高校の未来について考えることが、将来の自分たちの未来へ繋がっていることを考える良い機会になりました。今後も地域と共に連携を図り、より良い学校づくり、そして地域づくりを目指していきたいと思います。



下記のQRコード及び、リンク先よりご視聴頂けます。本校の発表は「2:16:01」からとなっております。
鳥取県議会：委員会等インターネット映像配信

[QRコード]



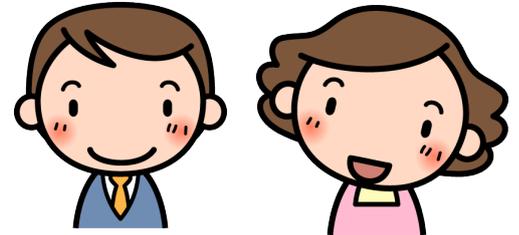
[リンク]

<http://www.kensakusystem.jp/tottori-vod/video/R04/R041031-15-1.html>



11月22日を語呂合わせで「いい夫婦」と読めます。この日を選んで結婚式を挙げる方や車のナンバーに選んで仲の良さを表現しているご夫婦もあるようです。

1 1 2 2
いい夫婦



一方で「夫婦げんかは犬も食わない」といいますから、夫婦は昔からよくケンカもするようです。では、なぜ夫婦はケンカをするのでしょうか？

A1について研究している黒川伊保子さんの研究成果によると、男性の脳と女性の脳では思考回路が全く逆であり、そもそも話がかみ合わないとのこと。ですから夫婦がケンカをするのは当然の結果ともいえるようです。

男性の脳と女性の脳の違いは右脳と左脳をつなぐ脳梁（のうりょう）の太さが異なることが原因です。女性は一般的に脳梁が男性より太く、感情的な右脳と論理的な左脳との間で情報が連携しやすくなります。逆に男性は脳梁が細く、右脳と左脳との連携が弱いのです。

必ずしも性別で思考に差があるのではなく、脳梁の太さによって脳全体としての働きに差が生じるために、一般的に脳梁の太い女性に多く見られる思考となるのか、脳梁の細い男性に多く見られる思考となるのかの違いです。

女性的な思考とは、目の前のものを見て、自分の身の危険を瞬時に察知し、あるいは自分の感覚に重きを置いた判断をします。男性的な思考とは、遠くを見て、論理的にものごとを処理します。物事を説明するときには、女性は順序立てて話をし、男性は結論から話をします。この違いを認識して対応しないと、相手に対して感情がないとか、回りくどいと感じてしまい、不快感を持ってしまいます。

人はこの差を太古から活かして、女性は目の前の危険に気づき家族を守り、また、子を産み育てるために自身の健康を維持し、男性は遠くに意識を持ちやがて来る危機に備えてきたのです。お互いの差を活かすことで長い歴史を生き延びてきたのです。

この相反する機能を同時に処理すると真逆の選択をすることになり、機能を停止してしまいます。そのため、人はどちらかの脳が優位になるようになっていくという説があるそうです。

人工知能を持つアンドロイドができたとしても、その脳は性差を持つことになるのでしょうかね。

脳の仕組みからもわかるように、違いがあってもいいのです。その違いを認識し補い合って良い結果を獲得しましょう。

校長 松川 明義



【行事予定】11月22日(火)：人権教育公開LHR（3年）
23日(水)：勤労感謝の日
26日(土)：中学校保護者対象学校見学会
来週は2学期期末考査です



米工 HP



米工 MAKERS

米工通信 第163号

令和4年11月25日

鳥取県立米子工業高等学校

担当者名 諸遊 勝義

11月12日の土曜日に中学生学校見学会を実施しました。鳥取県西部地区並びに一部の中部地区の中学校25校から160名の参加がありました。

中学生学校見学会

はじめに、班に分かれて各教室で学校の概要及び各科の説明をみんな真剣に聞いていました。そして、班ごとに各科の施設・設備を見学しながら、科の説明、また図書館では卒業後の進路についての説明を聞きました。



全体説明を聞いている様子

自分イメージする物を作れるようになる知識や技術を身に付けることができる。そんな『**ものづくりの学校**』の米工の楽しさ・面白さ、そして素晴らしさが十分に伝わったでしょうか？

どうだったでしょうか？
自分がイメージする物を作れるようになる知識や技術を身に付けることができる。そんな『**ものづくりの学校**』の米工の楽しさ・面白さ、そして素晴らしさが十分に伝わったでしょうか？



進路の説明を聞いている様子



環境エネルギー科での様子

アンケートの一部を紹介します。

- ・工業にはいろんな物を作る機械があることがわかりました。
- ・普通では体験できないことも工業では体験できそうだったので楽しみです。
- ・見学をして、工業に対する興味関心が深まった。



機械科での様子



建設科での様子



情報電子科での様子



電気科での様子

嬉しいですね。これを進路選択の一つとして考えてもらい。来年は入学して、**わくわく**しながらこの

100年の歴史ある米工に通ってきてもらいたいものです。



行事予定 11月26日(土)：中学校保護者対象学校見学会

11月28日(月)～12月2日(金)：第二学期期末考査

【12月の主な予定】12月20日(火)～22日(木)：保護者懇談会 12月23日(金)：第二学期終業式



米工 HP



今月は産業界と意見交換を行う二つの会がありました。この会で産業界側から出た話題に共通するキーワードは「コミュニケーション」でした。

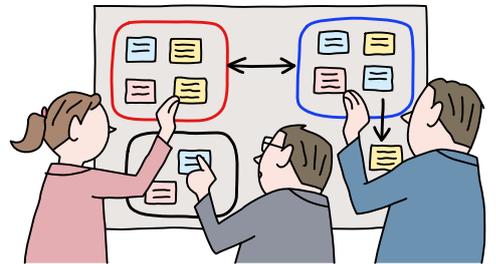


コミュニケーションの背景



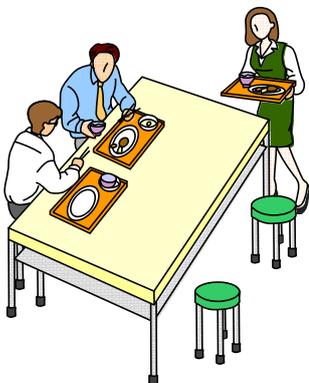
一つ目の会は鳥取県産業教育振興会西部地区行事です。西部地区の高校と特別支援学校、中学校代表が集まり、会に所属する企業の代表の方々と意見交換を行いました。ここでは「若い人に理解し難いところがあり、これを世の中では宇宙人と表現していたが、現在はZ世代と呼ばれさらにコミュニケーションが難しくなった。」という意見がありました。

二つ目は本校で実施した学校運営協議会です。こちらでは、「生徒の皆さんには社会人になるに当たって『コミュニケーション能力』を上げて欲しい」と要望がありました。



コミュニケーション能力とは伝える力のことと思いがちですが、まずは聴く力です。相手が何を言っているのか。また、相手が本当に伝えたいことは何かを理解する力です。相手が求めている回答をしなければコミュニケーションは成り立ちません。

やっかいなのは聴き方も伝え方も人によって異なることです。162号で取り上げた男性脳、女性脳のように、脳梁の太さの違いによって真逆のコミュニケーションが存在します。その上、年代や地域などによって育ってきた環境が異なりますから、それぞれの環境に応じて当たり前の感覚が異なります。親子の会話でも、お互いの育ってきた年代の環境が異なりますから話がうまくかみ合わないこともあるでしょう。また、高校に入学したとき、出身中学によって共通点があるのを感じませんでしたか。このような環境による違いを意識して相手の話を聴き、相手に適した伝え方をする努力がコミュニケーションには必要です。



さらに、年齢に偏りがある集団や本校のように男性が多い集団など、ある特定の条件に偏りがある集団ではその条件の多くに当てはまる人たちの考え方が正しい考え方として見なされやすいものです。しかし、この感覚はその世界だけで通用するものであり、一步外の世界に踏み出してみると、偏った感覚であることに気づくはず。多数決の論ではなく、少数派の存在に対しても意識し、思考のバランスをとるよう心がける必要があります。

もしも、自分の思いが正しく伝わらないことがよくあると感じているなら、自分中心の偏ったコミュニケーションになっていないか見直してください。

校長 松川 明義

- 【行事予定】 11月28日(月)～12月2日(金)：2学期期末考査
- 12月2日(金)：頭髪服装指導
- 5日(火)：球技大会
- 今週末の大会等：ジャパンマイコンカーラリー中国地区予選（広島県福山市）





「自分軸を探すことは難しい？」



4月から1年生のLHRでは、キャリアパスポートという冊子を用いてキャリア教育を行っています。そこでは、「3つの視点からアプローチして進路選択のヒントにしていきたいと思います。」と担任が生徒に伝えています。3つの視点とは、「興味（好きなこと）」「能力（できること）」「価値観（大切にしていること）」です。自分が何をしている時に一番やりがいを感じるのか、そして何を基準に進学先や会社を選んでいくのか。例えば、自動車のエンジンを調べて修理してみたい、電子工作をすることが好き、経済的に自立して都会で一人暮らしをしたい、地元就職にこだわりたい等々。自分の興味や大切にしたいことを書き出してみることで、「私が本当に望む生き方（働き方）」のヒントや、優先順位がなんとなくも見えてきたらラッキー、それは進路選択の第一歩です。

よく、進路室で求人票を見ている生徒から、「何がやりたいのかわからない。」と相談されることがあります。「職探しは自分探し」とも言われますが、仕事を決める上で、「これだけはゆずれないぞ。」という、ブレない自分軸みたいなものを作ることは、よほど経験の引き出しがたくさんある人でない限り、ひとりで見つけ出すことは難しいのではないかと思います。まず、働いた経験がないので働くとはどういうことなのかピンとこないし、本校に来る求人企業についても初めて見たり聞いたりすることがほとんどでしょう。そのため、「みんながこの会社は間違いないと言うから」と、他人軸を基準にして、誰かに会社選びをしてもらいたいと思う生徒の気持ちもよくわかります。でも、みんながいいという会社が本当に自分にとってのいい会社なののでしょうか。そこを見誤ってしまうと、たとえ在学中に内定が早く決まったとしても、来年の今頃、働きながら後悔しているかもしれません。一生懸命面接練習をした分、入社早々“離職フラグ”が立つことはできれば避けたいものですね・・・。

それでは、進学先や会社選びの基準となる、「自分軸」を探すためには一体どんな方法があるのでしょうか。私自身、特に悩める時など自然にそうなるのですが、ふらっと図書館や本屋に行ってみるのもアリだと思います。小説でもエッセイでも何でもいい。思わぬ「へえ、こんな考え方もアリか！」に出会えるかもしれません。ちなみに私事ではありますが、柘野 俊明著書の「放っておく力」という本に最近出会い、働き方や人間関係の在り方について新たな発見がありました。他には、NHK 総合の、「プロフェッショナル 仕事の流儀」「逆転人生 どん底からはい上がった人々の物語」「映像の世紀 バタフライエフェクト」等の番組視聴もおススメです。また、学校生活の中ではこんなシンプルな方法もあります。“進路について誰かに話す→周りの人の将来に対する考え方を聞く”、他者とシェアすることが、時に自分の刺激にもなります。1年生の進路LHRでは、キャリアパスポートのテーマに沿って書き出したことをグループシェアしたり、担任が、なぜ教員という道を選んだのかご自身の経験をカミングアウトしてくれたりします。2年生時のインターンシップや研修旅行、社会人講話等も自分探しのきっかけの一つだと意識し、色々な人の働き方や価値観を聞く機会だととらえましょう。

これまで学び経験してきたことを、「書かない」「言わない」「行動しない」から、「書き出す」「話す」「他者とシェアする」に行動を変えていくことで、「何がしたいのかわからない」という現状を少しずつ変えていけたらいいですね。こうしたインプット⇄アウトプットの繰り返しの中で、人は成功体験からは達成感を、失敗体験からは学びを得ます。そういえば近年の就職試験では、「あなたのこれまでの失敗（成功）体験から学び得たことは何ですか？」という質問をされる企業が多く、また、グループディスカッションを受験評価として重視する企業も増えています。ということは、LHRなどで自分の経験を書き出して他者と情報共有すること自体が受験対策にもなるので一石二鳥、特に1、2年生の皆さん！「好きなこと・できること・大切にしていること」この3つの視点から自分を知り、それらをアウトプットする練習を周りの人を巻き込んでぜひトライしましょう。

